

CDDP/ リピオドール懸濁液の安定性

岸田充広*, 町支臣成, 堀本重紀*

基礎と臨床 26 (4) 439-443 (1992)

Stability of CDDP/Lipiodol Suspension

Mitsuhiro Kishida*, Tominari Choshi and Shigenori Horimoto*

抄録 最近各種癌に著効な制癌剤であるシスプラチン(CDDP)が, 各病院において粉末化され, 腫瘍集積性のあるリピオドールをキャリアーとして肝動脈内に注入する癌化学療法が繁用されている。当院でもCDDP/リピオドール懸濁液(CPLS)の臨床使用において, 薬剤部が用時調製を行っているが, 緊急の場合, 調製の繁雑さに問題がある。そこで, 臨床への対応を迅速にすることを目的とし, 製剤としての安定性を調べCPLSの予製保存の可否を検討した。CPLSは, 5℃, 25℃遮光保存において, 4週間後迄含量は安定し, 平均粒子径も一定していた。無菌試験も陰性であった。また, 25℃4ヶ月保存後に外観変化が認められた。これらの結果から当院でのCPLS調製では, 4週間まで予製保存が可能であることが分かった。

* Department of Pharmacy, Hiroshima General Hospital

広島総合病院薬剤部